



平和とくらしを守る北九州市民の会

〒803-0817 小倉北区田町 13-21 田町ビル 3 F
Tel 093-592-5000 FAX 093-571-4346

北九州市民の会

検索



WEB : <http://siminnokai.com>
e-mail : koe@siminnokai.com

来年は「さよなら原発! 3.11北九州集会」に

10月26日(月)、「さよなら原発北九州集会」の第1回実行委員会を開催しました。来年の、3.11集会をどういうふうに取り組むかが主な議題でした。コロナ対策、雨対策等を考慮し、屋内集会で行うことになりました。3月7日(日)を第1候補にして、至急、会場の手配を行いました。ソレイユホール、芸術劇場等当たりでしたが、土日はほぼ埋まっていた。「3.11でもいいんじゃない」と、会議で確認していましたが、3月11日を仮押さえています。平日になります。10年目を迎える3.11集会としては良いのではないかと思います。次回、実行委員会は、11月13日(金)19:30分です。会場は、北九州市立生涯学習総合センターです。具体的な内容を詰めていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。(深江氏メールより)

「平和をあきらめない北九州ネット」定例集会

10月19日は、「平和をあきらめない北九州ネット」の定例19日行動でした。この日は特に、日本学術会議の105人の推薦から6名の任命を認可しなかった菅首相に対して、怒りのアピールがリレートークされました。北九州市立大学からO先生とI先生が集会に参加して下さり、問題点を整理した発言があり、退職してかなりになるM先生もアピールし、新鮮な感じの集会ができました。



北九州ネットでは、11月3日(火:文化の日)2:00~3:00市民と野党共闘を強めるための集会を、同じ小倉駅デッキで開催します。多数ご参加ください。

若松お買物バス運行開始!

石峰山コース
高塔山コース

10月31日、若松区民の会は、北九州市交通局を招き出前講演「ダイヤ改正、お買物バスの運行等について」を聞いて討論。若松区民の意見を聞きながら第3次北九州市営バス事業経営計画素案づくりについて説明してくれました。これについて区民の意見をどんどん寄せてほしいと真摯に要請されました。区民の会からもこうすればもっと改善されるのではないかと気さくに意見を交換し合う素晴らしい出前講演となりました。

これに「高齢者福祉乗車券」が実施されれば、高齢者の移動権は大幅に保障されるのではないかと明るい展望が見えてきたとともに、区民の会の本来的な役割を示す先例になるように感じました。北九州市交通局は、若松区以外についても市営の買い物バスの運行と「高齢者福祉乗車券」を実施すれば、高齢者の交通権を守る先進的な政令市になれるのではないのでしょうか。

「高齢者福祉乗車券」の実施を求める陳情署名の口頭陳述は11月11日(水)10:00~三輪事務局長が行います。議会傍聴をよろしくお願ひします。



(文責:三輪事務局長)

年金者組合若松支部が32回定期大会



10月31日(土)、若松市民会館視聴覚室で若松支部の定期総会が開催されました。最初に、2019年度物故者7名のご冥福を祈り黙とう。さすがに高齢者の出席が目立ったものの、会場の雰囲気は明るく元気があふれていた。若松支部は、組合員数273名で福岡県では最大組織を維持しています。コロナ禍のもと、「仲間づくり」では後退し、10%消費税増税の強硬は、くらしと経済に大打撃となりました。安倍政権を継承する菅内閣の下で、年金引き下げ反対、消費税は5%に戻せなど、市民と野党の共闘で政治の革新を求めていく行動方針を確認・採択しました。2019年度決算、2020年度予算、役員人事などすべての議案を満場一致で採択しました。最後は団結がんばろう!で閉めました。

10月31日(土)、若松市民会館視聴覚室で若松支部の定期総会が開催されました。最初に、2019年度物故者7名のご冥福を祈り黙とう。さすがに高齢者の出席が目立ったものの、会場の雰囲気は明るく元気があふれていた。若松支部は、組合員数273名で福岡県では最大組織を維持しています。コロナ禍のもと、「仲間づくり」では後退し、10%消費税増税の強硬は、くらしと経済に大打撃となりました。安倍政権を継承する菅内閣の下で、年金引き下げ反対、消費税は5%に戻せなど、市民と野党の共闘で政治の革新を求めていく行動方針を確認・採択しました。2019年度決算、2020年度予算、役員人事などすべての議案を満場一致で採択しました。最後は団結がんばろう!で閉めました。

9条の会・北九州憲法ネットが総会 天久弁護士が記念講演

10月17日(土)、北九州憲法ネットと憲法共同センターの共催による記録映画「1960年安保闘争~不滅の足跡~」と天久泰弁護士記念講演「安保闘争を現代につなげる」が開催されました。参加者:78名、アンケート回収数:43枚。総会は一括提案で承認されました。アンケートの一部を紹介させていただきます。



◆60年安保闘争に至る映画をありがとうございました。当時、東京にいた私は、自由参加していました。今、あの頃の熱気が沸きおこればと、願わずにいられません。

◆映像の乱れがありましたが、事実が凄いだけに、迫力がありました。若い人が頑張っていることが印象的です。今だけ見ると、若者が元気がないとも思われがちですが、日本人もまんざらでもないと思われました。要は、どう運動を作っていくかですね。天久弁護士の話も整理されていて、勉強になりました。

◆今日は、貴重な映像や講演を聞かせていただき、ありがとうございました。一人ひとりが、個々の存在としてしかできなくなり、絆というか、つながりが希薄になった現在、私たち一人ひとりの力は微力だけれど、決して無力ではない筈です。これからの、この国の在り方を、一人一人が真剣に考えなければならぬと思います。その為にも、もっと若い人たちが政治に関心を持って、考える場を増やさなければならぬと思います。50~60年前の安保の時代と現在、…熱量の違いを感じます。

◆天久先生がプロフィールとレジメの事件と関連させて話したのが印象深かった。私は、臣民、として、1939年に生まれ、45年に国民学校に入学、8月8日の八幡大空襲で焼け出され、8月15日に終戦。新憲法で、小学生となったのが、私の原点。それに通じる話とと思いました。レジメと話が合致し、分かりやすい。まとめへの流れ、素晴らしい。

◆60年安保闘争を直接闘った経験が、今までの人生に決定的といえる原点となり、「雀百まで踊り忘れず」の心境。安倍・菅政権との闘う姿勢は、変わらない。幸せな人生である。それに比べ、若い人たちは、ある意味、気の毒と思う。闘うエネルギーをどう発散させるか?闘う土俵、戦場がない。スマホ、インターネットだけではだめ。目に見え、お互いの声で語り合い、ともに行動すること抜きでは。どう工夫する?結論・安保闘争の教訓、総括、そして、現在の情勢分析、今後の闘いの方向を勉強したい。かつての「人民大学」「勤労協・労働講座」が懐かしい。

コロナ問題雇用と暮らしの緊急ホットライン 単発の支援ではなく、継続した支援を

4月から数えて4回目となった生活保護問題対策全国会議主催の「コロナ災害を乗り越えるのちとくらしを守るなんでも電話相談会」の第4弾が10月10日(土)に開催され、今回も北九州市社保協は連携して取り組みを行いました。1回目から回を重ねるごとに相談件数は減少していきましたが、それでも舞い込んでくる相談は内容が切実なものが多く事態はより一層、深刻化しているのは否めない状況です。潜在的に困窮している人々に、この相談会を知ってもらうことが重要との思いから今回は全国はもとより北九州市社保協も広報に力を入れました。チラシを地域に6,500枚配布。各民主団体の新聞に13,000枚を折り込み。また今回、趣旨に賛同頂いたミニコミ誌に無料掲載してもらいました。(市内350,000部)



マスコミ関係では新聞2社が事前告知と当日は民放TVと新聞社1社が取材に訪れました。昼のニュースで相談会の様子が流れたことや全国ではNHKのニュースとラジオ、SNSでの発信もあり「テレビを見た」「ラジオを聞いた。SNSで知った」方々からの相談電話が殺到しました。広報の効果もあってか、今回は全国で777件の相談があり、ここ北九州市社保協の会場でも34件の相談を受けました。相談内容としては労働者からの労働問題(生活問題に直結する)が多かったと思われます。特徴的な例をあげると、3人家族の観光バス運転手からは「Go To トラベルも始まったが未だ、自宅待機を命じられている。特別給付金など支援金は申請、受給してもらったが底をついた。今は貯蓄を切り崩しながら何とか生活している。この状態が続く様であれば、この先が不安」や40代会社経営の男性からは「コロナで赤字。持続化給付金など使える制度は活用したが、経営はいっこうに好転しない。このままでは会社が続けられない。破産手続きしかない」といった深刻な相談が他にも多数、寄せられました。やはり、一回限りの支援では一時しのぎは出来ても、すぐに窮地に追いやられる現状があることが如実に伝わってきました。「持続した支援」の必要性をあらためて訴えていこうと思ひます。

(北九州市社保協事務局 岡本)

高齢者福祉乗車券、請願署名 市議会保健福祉委員会で審査



11月11日、市議会保健福祉委員会において高齢者福祉乗車券請願の審査が行われました。請願者を代表して、市民の会の三輪俊和事務局長が口頭陳述を行いました。(陳述内容は下に記載)

これに対して、北九州市保健福祉局から請願に対する見解が示され、その内容は、北九州市内の交通事業者による割引制度があり、高齢者の外出できる環境は整っていること、介護保険をはじめとする健康寿命をのばす取り組みや、おでかけ交通、介護施設の車両をつかっている買い物支援などが行われており、高齢者福祉乗車券は交通費助成に多大な財政的負担が生じるため実施できないとしました。

その後、各議員からの質疑が行われ、柳井議員、讃井議員、福島議員、藤沢議員から発言があり、請願者が訴えた交通事業者が行っている割引乗車券の発行枚数が少ないことへの指摘や、北九州市の公共交通が交通事業者まかせとなっており、市のあり方、関わり合いについての質問が相次ぎました。

また、今回の審査が保健福祉局の対応になっており、交通問題を担当する建築都市局の交通政策課との連携が必要などの意見が出されました。

委員会の議論を通じて、高齢者の移動問題で保健福祉局と建築都市局との連携がされていないことが分かり、今回の請願について建築都市局に伝えることを約束しました。また、福岡市並みに実施した場合、北九州市では約16億円かかることがわかりました。

今後、北九州市の実施しない理由のひとつを検証することが必要です。引きつづき、実現へ向けての運動をすすめていきましょう。

- ①署名に協力していただいた方に、署名到達の報告とお礼をしましょう。
- ②署名賛同者などに呼びかけて、地域での高齢者福祉乗車券についてのミニ学習会などを開き、運動の輪を広げましょう。

口頭陳述 内容

① 高齢者福祉乗車券の実施がなぜ急がれるのか

北九州市の高齢化率は30.7%で政令市トップです。(人口約95万のうち高齢者は29万人) ②その高齢者の4割が自家用車のない世帯です。③本市では平成13年～26年まで間に47路線(約117km)が廃止されました。バス路線の撤退や減便がすすめられており、北九州市の公共交通空白地(鉄道駅から500m以上、バス停から300m以上)には、市内人口の20%の人が住んでいます。20政令市中13政令市で高齢者の移動権を保障する支援事業が行われています。高齢者福祉乗車券の実施がどれほど熱烈な市民要求であるかは、9月24日、の21933人の悲痛な請願署名の声が議員の皆さんには聞こえないのでしょうか。

② 9月議会で北九州市は高齢者福祉乗車券は実施しないと明言

最大の理由は、交通事業者の独自に割引制度が実施されており、高齢者が外出しやすい環境整備がすでに整えられていると主張。交通機関を頻繁に利用する人は割安で活用することができますが、1週間に1回・2回の利用する高齢者は、かえって割高になりこの制度は利用しません。実際、市営バスのふれあい定期が約2500件、モノレールのシルバーパス約4千件と30万近い市内高齢者全体から見ると少数の利用状況であるのに、高齢者が外出しやすい環境整備がすでに整っていると明言しました。もう一つの理由は、おでかけ交通を7か所で行っている。しかし、北九州市が実施している「おでかけ交通」は、路線バスが廃止となった地区や高台など、元々バス路線が存在しない地区など、市内7地区で地域を主体にタクシー事業者と市が協力して事業が行われています。その利用者は、ピーク時の平成15年の17万人から平成30年度は85,559人と半減、全路線が赤字で、赤字への運営補助も100%の補填ではなく、事業者が負担となり運賃が引き上げられているのが実態であり、利用者も減少するという悪循環に陥っています。

③ 若松のお買い物バスに展望

若松のお買い物バス(高塔山コース)、(石峰山コース)は10月26日に運航を開始しました。

若松区民の会での出前講演(市交通局)で、説明を受け、なんでも希望を述べてくださいと言われ、区民としても改善点を主張しながらも全体として展望が見える思いがした。これに高齢者福祉乗車券が実現すれば、若松区民の高齢者はドアTOD

アで、買い物や病院通いができる。これを若松だけでなく全市で取り組んでいけるように運動を進めていきたい。

④ 最後に

今回の審議は保健福祉局の議会委員会での審議となっていますが、福祉の観点だけではこの請願事項には対応できません。交通と福祉は別々という行政の縦割りの考え方をやめ、生活交通の視点から一体的に施策を展開する必要があります。建築都市局の交通計画課と保健福祉局の計画課がそれぞれ協力して取り組んでいただきたいことを強く要請して口頭陳述を終わります。

第13回市民講座 杉山正隆歯科医師が講演 新型コロナを口実にした悪政を許さない

平和とくらしと守る北九州市民の会主催の第13回市民講座が、小倉北区の市立男女共同参画センター・ムーブで開催され、歯科医師、ジャーナリストでもある、杉山正隆さんが「正しく知り、正しく恐れよう～新型コロナウイルスを口実にした悪政を許さないために～」と題して講演しました。約40人の市民が駆けつけました。



杉山さんはコロナ禍の中、歯科医師として患者さんと向き合い、取材を通して感じた「コロナ対策の最前線」の事実を経済誌などで多く発信しています。

講演冒頭で、杉山さんは「コロナは怖いけど、まずは敵を知らないといけない」「コロナを口実にできないことがたくさんあるが、国会ではきちんと論戦してほしい。安倍さんは戦後最悪の総理と言われたが、今の政権はもっとひどくなっているのではないかと、国会審議でまともな答弁をしない菅政権を厳しく批判。

またコロナ禍で浮きあがった医療体制の脆弱さを指摘し、「保健所は1996年は全国で845か所あったが、今は469か所。感染症対策とは真逆の政策を次々を実施した自民党政権の責任は重い」と「コロナ禍は人災」と強調しました。感染症対策を担う保健所の数がクローズアップされる中、北九州市は各区にあった保健所を削減し、現在は小倉北区にたった一か所のみ。お隣の政令市、福岡市は6か所です。

杉山さんは、新型コロナウイルスの特徴がかなり分かってきたとして、会話(飛沫量)を減らす、手洗い、換気の大切さなど感染対策を説明。「正しい情報をみんなで共有し、コロナ禍こそ、やれることがあると思う。自信を持って運動を前に進めよう」と呼びかけました。

杉山さんの講演後、日本共産党北九州市議団の石田康高団長が、北九州市での最新の新型コロナ感染の現状を詳しく解説。

また公益財団法人健和会の山口明子さんが「コロナ禍における介護保険利用者自己負担額の撤回の取り組み」を通じた教訓と課題を報告しました。



市民と野党の共闘で、政治をかえよう!

1946年11月3日に日本国憲法が公布された小倉駅前広場に100人を超える憲法改悪に反対する仲間が集まり、「平和をあきらめない北九州ネット」主催で、「11・3憲法集会」が開かれました。

この集会の進行は南川さんが行い、憲法改悪に反対する立憲民主党城井崇衆議院議員、日本共産党真島省三前衆議院議員、社民党から佐々木允福岡県議員、緒方林太郎前衆議院議員が出席し、菅総理の進める安倍政治の継承、政権を私物化、日本学術会議の任命拒否問題など、でたらめな政治を変えていこうと訴えました。また、九州国際大学の神陽子教授も駆けつけてくれ、菅首相の行った学術会議の任命拒否問題について、国内法に違反するもので認めることは出来ないと訴えました。

国会議員などのリレートークの後、「平和をあきらめない北九州ネット」代表の前田憲徳弁護士がマイクを握り、11・3憲法集会が大きな成功を収めたこと、安倍政権の悪政を受け継ぐ菅内閣の悪政を辞めさせるためにがんばっていく決意が述べられました。行動の最後は、事務局を担当している池上弁護士がマイクを握り、「政治を変えていく為に積極的に声を上げていこう」と締めくくりました。

会場には、鬼滅の刃の一場面から、「生殺与奪の権を管に握らせるな!!」と書かれた大型ポスターも持ち込まれ、通行する方が写メをするなど大きな盛り上がりを見せました。

(堀田和夫氏FBより)

